みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

モンゴル風物誌：ことわざに文化を読む

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-02-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小長谷, 有紀 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/4580

プロローグ

三百六十度みわたすかぎり草原がひろがっている。ゆるやかにうねりながらひろがる緑の絨毯は、どこまでつづいているのだろうか。絨毯はゆるゆると傾斜地をのぼり、やがて森へと徐々に消える。あるいはまた、いつのまにか緑色がはらはらと薄れて、忽然と消える。

そんなモンゴル草原を舞台にして、人びとは家畜とともにくらしてきた。かれらの生活は、わたしたちの生活とおおいにちがっている。きっと、かれらの頭の中も、わたしたちとは異なっているにちがいない。なにが真理で、なにが美徳で、なにが善悪なのだろうか。わたしたちとおなじ人生観をもっているとはかぎらないのである。

モンゴルの遊牧生活については、人びとの中に身をゆだねることによって、いくらか理解できるかもしれない。しかし、いくら人びとの生活を知っても、ただちに人びとの頭の中まで知ることはできないように思われる。思考様式というものは、生活様式にくらべれば、分析するのはもちろんのこと抽出するだけでもむずかしい。

本書は、モンゴル遊牧民が、そのくらしをベースにして構築してきたことわざの世界を少しずつほぐしてゆくことによって、かれらの思考様式をさぐろうとしたものである。モンゴルの風土とともに、その精神的風土をことわざによみとろうというのである。

人生の真理というものは、ある程度までなら文化をこえて共通しているであろう。ただし、同義同類の真理が、かならずしも類似した表現でかたられるとはかぎらない。むしろ、まったく表現がちがうにもかかわらず、おなじ真理がかたられるところに、各文化のおもしろさをみいだすことができよう。

また逆に、表現がかなり類似しているために、てっきりおなじ真理がかたられているにちがいないと思っていると、意外にもまったく異なる意味がたくされている場合もある。しばしば逆もまた真であるし、そもそも真理は一つではない。

ネコがいないような草原では、「ネコに小判」はなんというのであろうか。また、ネコがいても魚がないなら、「ネコに鰹節」はなんというのであろうか。そもそも、そういう概念をあらわすことわざはあるのだろうか。モンゴルらしいことわざの表現を楽しみながら、その奥にかくされた人びとの頭の中にあるモンゴルの風景をあじわうことができれば、きっともっと、楽しいにちがいない。ことわざを通じて、異文化への旅に出かけよう。